



No. 107 2021. 4. 27

明石市コミュニティ・スクールだより

人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

## 朝霧川に泳ぐこいのぼり

### 認知されにくい力（非認知スキル）が育つ場とは



新年度が始まってコロナはおさまる気配もなく、逆に変異型のコロナ感染が広がり、コロナ対応に追われる毎日が続いています。そんな中、朝霧川に数日前、かわいいこいのぼりが泳いでいるのが目に飛び込んできました。コロナ禍で季節の移り変わりや、季節を楽しむ余裕もない毎日を送っておられる方も多いのではと思います。そんな中、子どもたちの登下校を見

守るかのように元気に泳いでいるこいのぼりをみると元気をもらったような気がしました。そう思っていると神戸新聞の4月25日朝刊にも「色鮮やかに咲く60種の花」という見出しで花壇の記事の中でもこいのぼりが紹介されていました。

こんな、地域の人々のアイデアが気持ちをほぐしてくれるんだなと感じました。花壇の花やこいのぼりを見て“かわいいな”“きれいだな”といったことを感じる

色鮮やかに咲く60種の花 朝霧小前、住民グループが整備 明石

2021/04/25 09:30

朝霧小学校（兵庫県明石市朝霧東町1）前の調整池周辺で、色鮮やかな約60種類の花が咲き乱れ、通行く人の目を楽しませる。世話するのは、地元住民のボランティアグループ「おはよう朝霧」。このほど「コロナに負けるな」と書いた看板も設置し、「住民を元気に」と日々の作業に汗を流す。

同グループによると、朝霧川にかかる奥山橋が約20年前にかけ替えられ、整備された調整池の周囲で犬のふんなどの放置が増えた。住民有志が池の周囲約45メートルの土を改良し、花壇を整備したのが始まりという。

花壇ではマリーゴールドやヒマワリ、イベリスなど四季折々の花を年間通じて咲かせるため、日々の世話が欠かせない。メンバーの朝霧小5年男児（10）は「大変だけど、きれいな花が咲くとうれしい」。

このたび設置した看板に「笑顔でおしゃべりできる日まで頑張ろう」とのメッセージをしたため、小さなこいのぼりも飾った。代表の高徳雄三さん（85）は「花を見た人に笑顔が輝くのが何より」。（小西隆久）

4月25日神戸新聞 NEXT より

子どもは多いと思います。それが、たとえ少数でもそうしたことに会い、感じることにによって子どもたちの“認知されにくい力（非認知スキル）”が育つんだらうなと思います。そしてこの記事には花壇のお世話をするボランティアグループの「おはよう朝霧」のメンバーの朝霧小学校5年生の子ども「大変だけど、きれいな花が咲くとうれしい」というコメントが載っていました。こうした活動に子どもも参加していることにビックリするとともに、こうした活動の中での学びが生涯を通して学ぶ土台をつくっていくんだらうなと思いました。学校の地域学習の中で子どもたちを地域とつなぐことによって、子どもたちが地域の中で学ぶ場が広がっていくんだらうなと思いました。

また、登校してくる中学生の姿がこの頃とても新鮮に感じます。新年度が始まってアレッと思ったのが靴や靴下の色でした。足元がカラフルになったのに驚いていたのですが、気温の変化にうまく対応するかのように制服の上着なしで登校する子やカーデガンやセーターをはおって登校する子など様々ですが、子どもたちがとても自然に見えます。

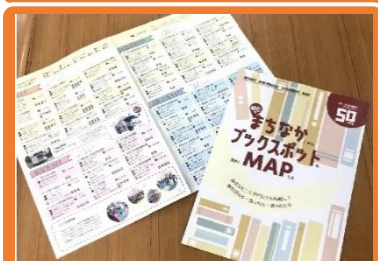
これまでは5月末から6月上旬が衣替え期間と決まっており、この時期では見られない光景でしたが、気温や体調によって自分で判断してコントロールするという普通のことが、

新鮮に思えるのも不思議な感じですが。“衣替え”という風物詩がなくなっていくのも寂しいですが、こんな些細なことのように、こうしたことが“子どもが育つ”場であり、こうした中で、子どもたちの“認知されにくい力（非認知スキル）”が育っていくのではと思います。

### 人と人つなぐ「小さな図書館、 マイクロ・ライブラリー」って？



4月23日神戸新聞朝刊より



明石まちなかスポットMAP

そんなことを考えていると“人と人つなぐ「小さな図書館、」”という記事が目にとまりました。玄関先に500冊の蔵書を置き自由に借りることができるようにしておられるようです。これは「マイクロ・ライブラリー」と呼ばれ、アメリカ等で広がっている取組で、自宅や店の前に置いた小さな箱に本を入れ、地域住民が自由に読んだり借りたりできる仕組みだそうです。「だれかとつながりたい」という思いで解説され、コロナ禍で実現はして

いませんが、読書スペースを設け、交流会等が開けたらという夢を持たれているようです。そんなブックスポットが明石にはたくさんあるようです。それを紹介しているのが“明石まちなかスポットMAP”です。地域でのこうした取組などにもつながっていったら、子どもが“育つ場”が広がっていくのではと思います。そして“全員が同じことを同じようにという発想”ではなく、子どもたちが“つながる”

仕組みをデザインするという発想が、子どもたちを育てる場づくりになると考えています。また学校として学校の情報を発信する取組として、また子どもたちが地域とつながる場として「マイクロ・ライブラリー」にチャレンジしてみるのもありかなとったりします。そうしたことを可能にするカリキュラム・マネジメントを考えてみるだけでも面白いのではと思います。

### こんな本が目にとまりました 学校の未来はここから始まる～学校を変える、本気の教育議論～ 木村泰子×工藤勇一×合田哲雄



某ネット販売サイトから本の案内メールが届きました。“学校の未来はここから始まる”という題目に目にとまるだけでなく、木村泰子×工藤勇一×合田哲雄と名前をみた瞬間にポチってしまいました。

現在読んでいる途中ですが、コロナ禍の中で各々が考えられたことから始まり、コロナ禍であぶりだされた課題、そうしたこととつながりながら子どもたちの学びがどのように変わっていくかなど、今後の学校のあり方や学びのあり方を考えるうえで参考になることがいっぱい詰まっていそうな感じです。職員室に置かれて、読まれて感じたことを対話されるだけでも未来に向かっての一步が踏み出されるのではと思います。皆さんで交流を深めるために、読まれての感想を送っていただけたらありがたいです。

(文責：北本)